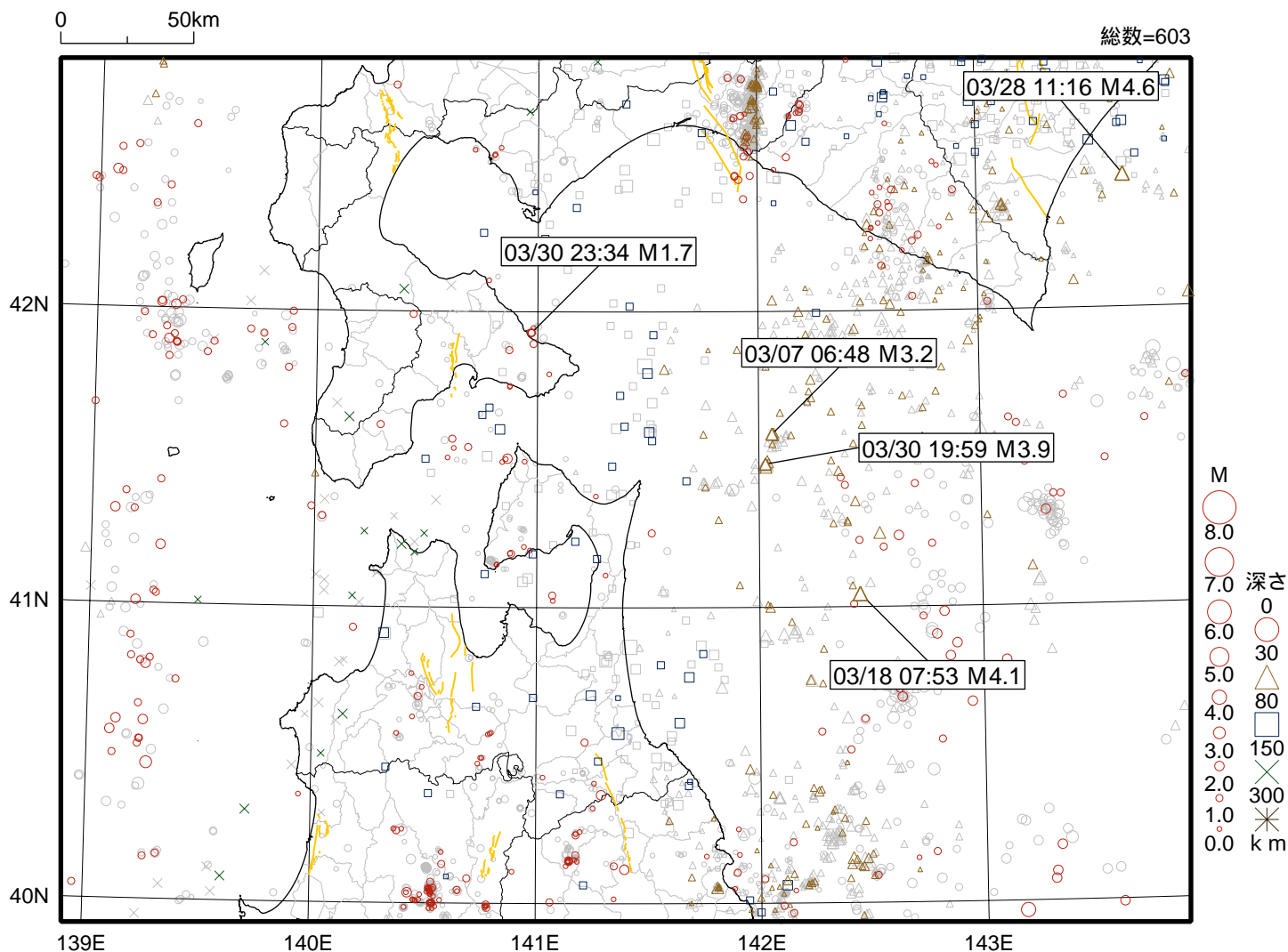


渡島・檜山地方の地震活動図

2019年3月1日～2019年3月31日

震央分布図

函館地方気象台



これは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
記号Mはマグニチュードを表します。
図中橙色の線は地震調査研究推進本部による主要活断層を表します。
過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。

地震概況（2019年3月）

この期間、渡島・檜山地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は6回（前月は1回）発生しました（「渡島・檜山地方で震度1以上を観測した地震の表」参照）。

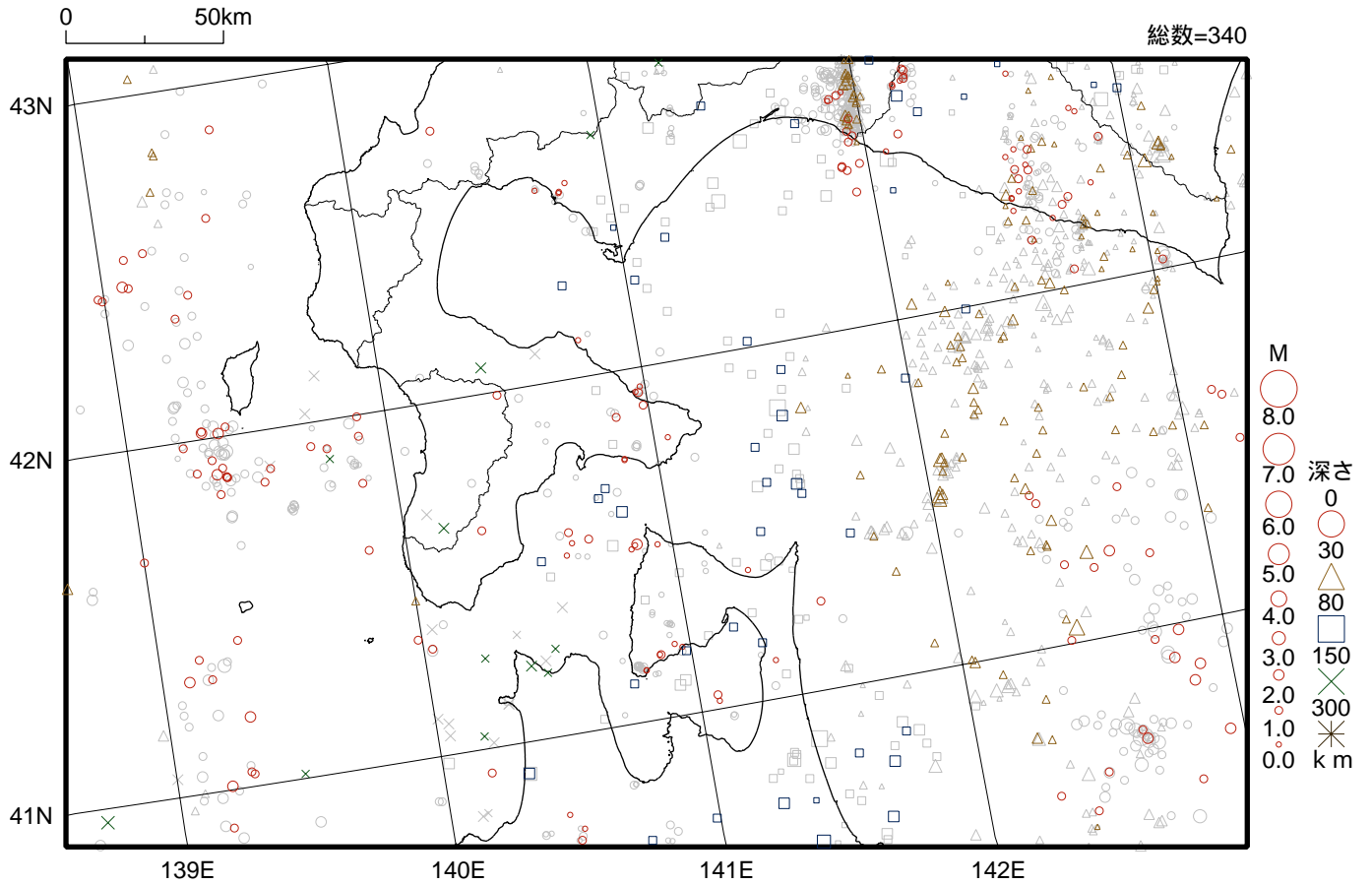
2日12時22分、根室半島南東沖の地震（M6.2、深さ33km[CMT解による]、震央分布図の範囲外）により、函館市で震度2、長万部町、鹿部町で震度1を観測しました。

（ 気象庁CMT解のセントロイドの深さを用いています。気象庁震源カタログでは深さ51kmです。 ）

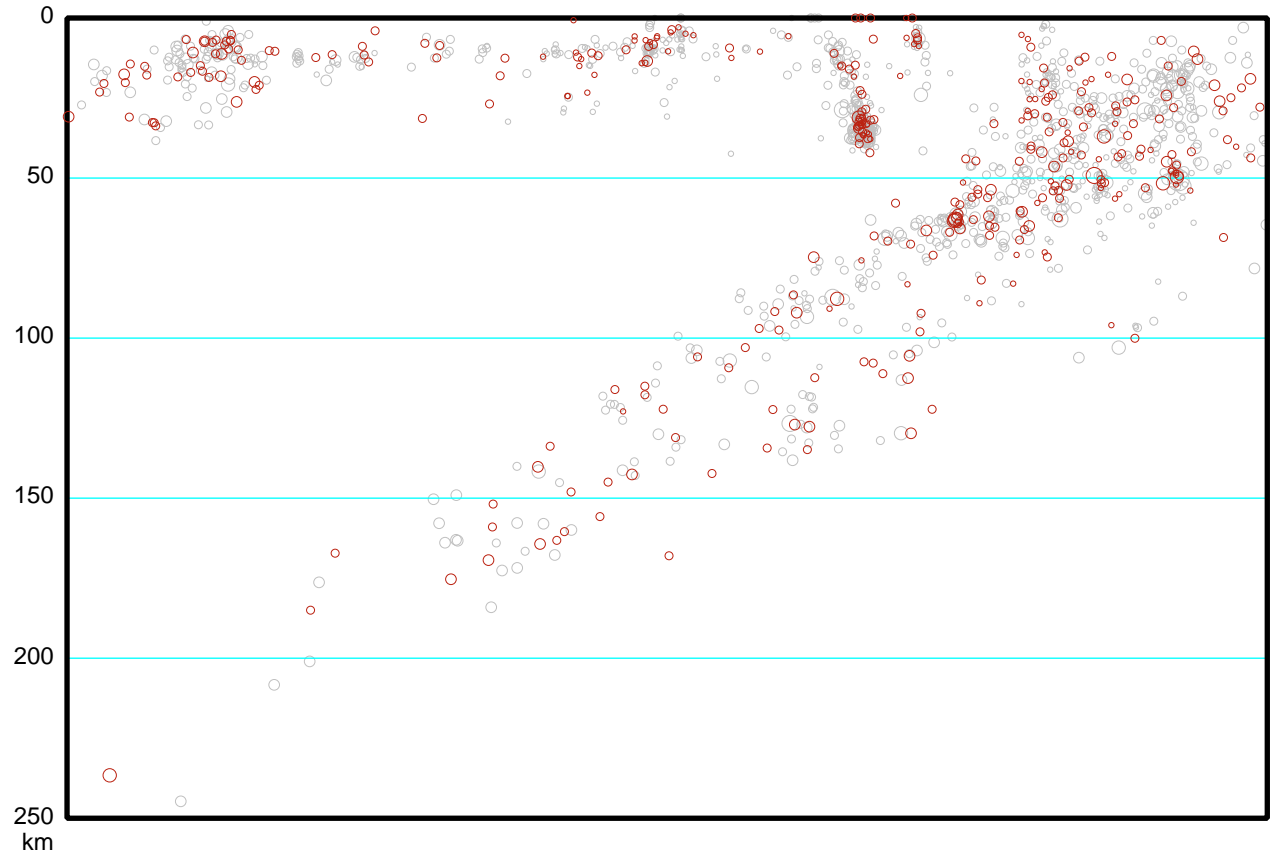
この活動図は、函館地方気象台のホームページに掲載しておりますのでご利用ください。
ホームページのアドレスは、「<https://www.jma-net.go.jp/hakodate-c/>」です。

2019年3月1日 ~ 2019年3月31日

震央分布図



断面図



これは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
記号Mはマグニチュードを表します。
過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。

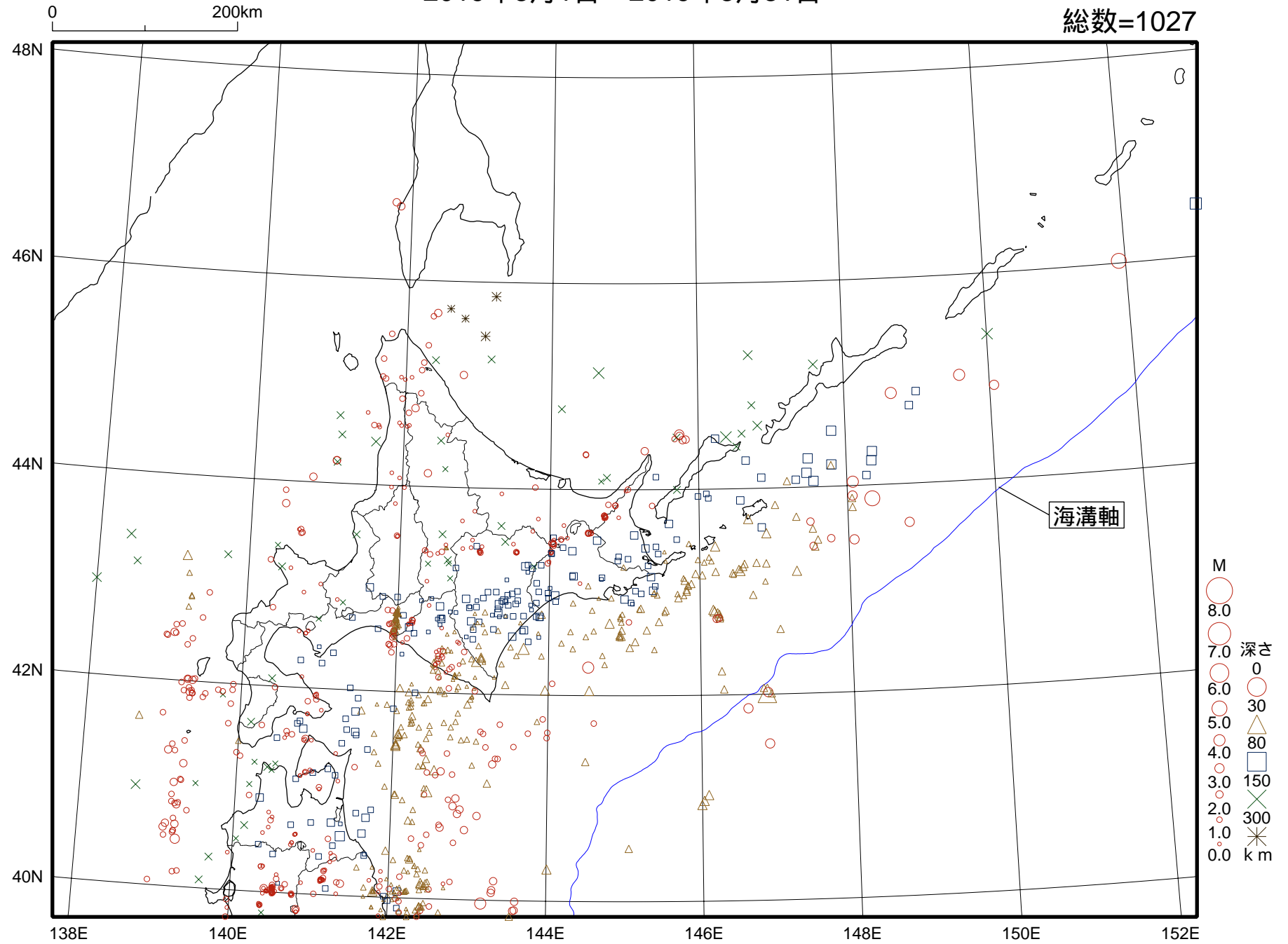
北海道の地震活動図

2019年3月1日 ~ 2019年3月31日

札幌管区気象台

総数=1027

震央分布図



渡島・檜山地方で震度 1 以上を観測した地震の表 (2019年3月)

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (k m)	規模 (M)
2019年 3月 2日 渡島地方	12時22分 震度 2 震度 1	根室半島南東沖 函館市泊町 * (18) 函館市新浜町 * (20) 長万部町平里 * (06) 函館市川汲町 * (09) 鹿部町宮浜 * (07)	42 ° 00.4 N	146 ° 51.7 E	51 k m	M6.2
2019年 3月 7日 渡島地方	06時48分 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町 * (06)	41 ° 35.1 N	142 ° 03.5 E	63 k m	M3.2
2019年 3月 18日 渡島地方	07時53分 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町 * (06)	41 ° 02.6 N	142 ° 27.0 E	49 k m	M4.1
2019年 3月 28日 渡島地方	11時16分 震度 1	十勝沖 函館市泊町 * (09) 函館市新浜町 * (12) 函館市川汲町 * (10)	42 ° 26.8 N	143 ° 40.2 E	78 k m	M4.6
2019年 3月 30日 渡島地方	19時59分 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町 * (11)	41 ° 29.0 N	142 ° 01.7 E	63 k m	M3.9
2019年 3月 30日 渡島地方	23時34分 震度 1	内浦湾 函館市川汲町 * (07)	41 ° 55.7 N	140 ° 58.2 E	9 k m	M1.7

各地の震度は、渡島・檜山地方のみを掲載しています。

* のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

地震概況ではセントロイドの深さで表現した地震が含まれている場合があります。

震源の緯度、経度、深さ、規模は暫定値であり、データは後日変更することがあります。

()内の数値は0.1単位の詳細な震度 (計測震度) の小数点を省略して表しています。

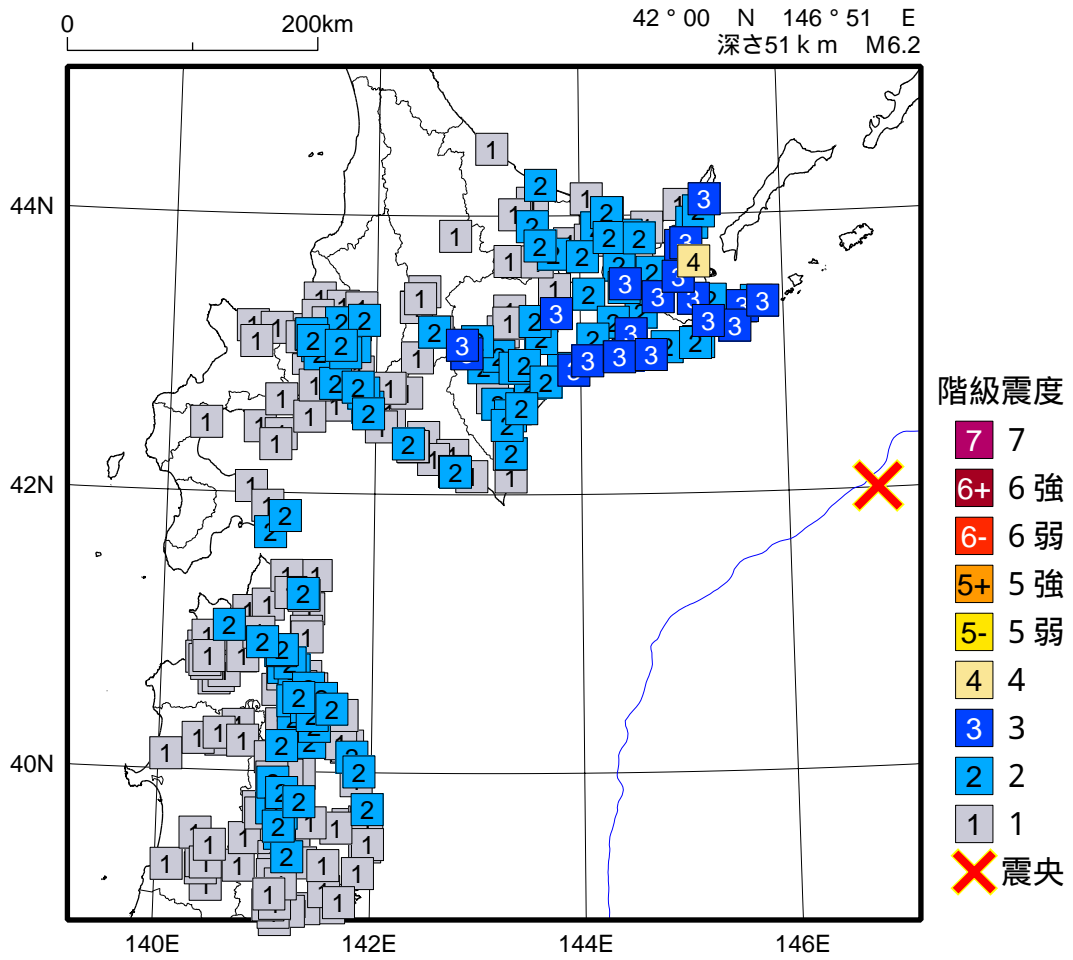
計測震度と震度階級の対応は下表のとおりになっています。

計測震度と震度階級の関係

計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点 (河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合 (IRIS) の観測点 (台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東) のデータを用いて作成しています。

2019年 3月 2日12時22分 根室半島南東沖の地震の震度分布図



渡島・檜山地方の震度観測点配置図

【防災メモ】

～異常震域について～

<異常震域について>

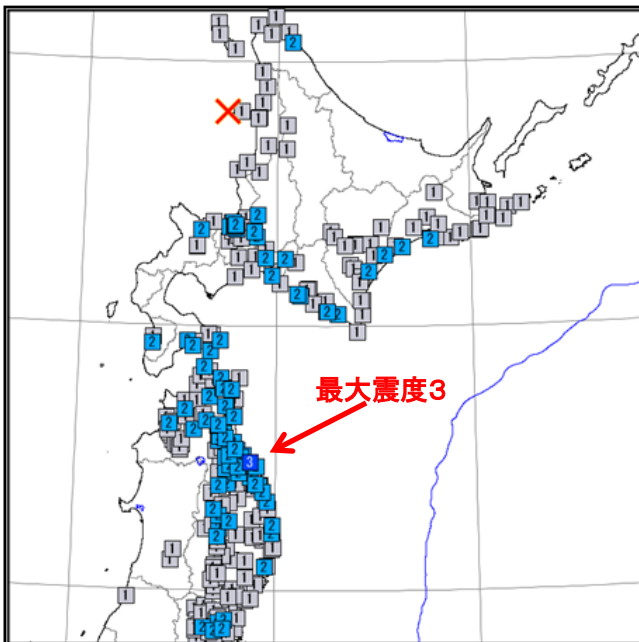
一般的に、地震の揺れは震源に近い場所ほど強く、震源から遠い場所ほど弱くなります。しかし、深い場所で発生する地震（深発地震）では、震源に近い場所より遠い場所の方が大きく揺れる場合があります。

この強く揺れた領域は「異常震域」と呼ばれています。この現象は、震源直上の領域を伝わった地震波よりも海洋プレートを伝わった地震波の方が減衰が少ないことが原因です（図1）。



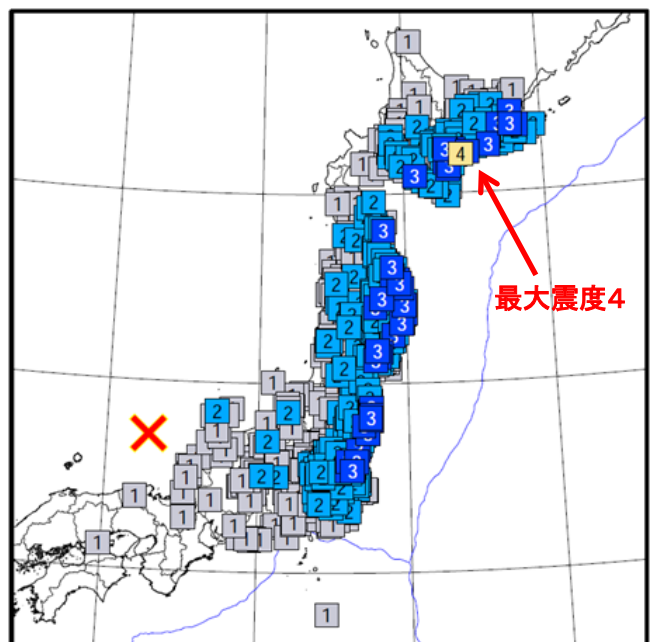
図1 異常震域模式図

例えば、北海道北西沖の地震（深さ 265km）により東北地方で最大震度3を観測した事例や、京都府沖の地震（深さ 374km）により北海道で最大震度4を観測した事例があります（図2）。



北海道北西沖の地震

(2016年1月12日 M6.2 深さ265km)



京都府沖の地震

(2007年7月16日 M6.7 深さ374km)

図2 異常震域の例